

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104371		
法人名	株式会社 介護ステーション オアシス		
事業所名(ユニット名)	株式会社 介護ステーション オアシス グループホームオアシス		
所在地	和歌山県和歌山市つつしが丘2丁目6-1		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の希望があれば入所からターミナルまでの一貫したサービスを行なっております。ご利用者様・御家族様に寄り添い、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしていただけるように努力し、一人一人に適したニーズを把握できるように心掛けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp">http://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和5年10月12日

ワンユニットのグループホームのため少人数という利点が活かされ、一人ひとりを大切に、利用者本位のケアを行っています。医療との連携、看護師対応がきめ細やかになされる事で希望があれば看取りまで行える、終の棲家として安心して過ごしていただけるようスタッフの連携がなされています。排泄に関しても個々のニーズを把握し対応することで、自立支援に繋がられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全かつ質の高い介護を目指し、朝礼時に理念を復唱し、念頭に置き始業する。	質の高い介護を目指し、利用者を最優先した考え方をグループホームの理念としている。スタッフの気付きやすいところに理念を掲示し、朝礼時に唱和して周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の人と気軽に挨拶を行い又、年に一回大々的に秋祭りを行い近隣との交流を図っている。(近年コロナ禍により秋祭りは中止しています)	以前は、秋祭りを大々的に行い、近隣の参加も多くみられたが、コロナ禍もあり今は行われていない。自治会とは連携しており、ボランティアの来訪等は再開していきたいと検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の介護支援専門員が常時相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、包括の職員また民生委員さんに参加してもらい、報告を行い、ご意見をいただくことでサービスの変更や向上に努めている。	今年6月から運営推進会議を再開、御家族にも順番で参加いただき、包括職員、民生委員等も参加頂けた。長らく書面のみで開催だったため、久しぶりの参加に家族の思いを話せる場となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	円滑なサービス運営ができるよう不明点など尋ね、ご指導を仰ぎ連携をもつ様に心がけている。	市町村の生活支援課の担当者、指導監査課の担当者とは相談する中で協力体制を構築している。コロナに関しては運営等に対して、具体的に相談し、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、色々と工夫して対応している。又、拘束についての勉強会も行っている。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回行い、年2回拘束についての勉強会を行っている。拘束の意味、身体拘束をしない理解を正しく学びケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待に対して強い関心を持ち、虐待等の行為に対して許さない強い姿勢を持っている。都度、虐待の施設研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の諸制度と共に、現任研修で職員も学ぶ機会を設けている。必要であれば成年後見制度の案内もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い納得してもらっている。また変更時などは早めに連絡し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に一度以上は来所されるので、その都度意見や要望を伺い、意見や要望が言える雰囲気作りをし、思いを汲み取る様心がけている。	利用者で直接意見を言える方は少ないため、支払いを現金回収にすることで、家族が月一度は来所していただけるように工夫している。来所時に直接話の中で意見が言いやすい配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署で月に1度以上はミーティングを行い、職員の意見を聞き主任会議において提案している。また、代表者は常に事業所を訪れ職員の提案等を活かす努力をしている。	普段から職員の意見を聞き入れ提案する体制はできている。ミーティングの機会においても利用者がよりよく過ごせる内容の話合いがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等を取得する様に勧め、資格に対して給与に反映する様なシステムになっている。、又代表者は、職員をよく把握しており、適材を適所に配置し、各人が向上心を持って働ける様工夫されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員のスキルアップを考えており、研修への参加やケアの現場に入り、指導を行い職員の介護技術の向上に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加しており、研修時に、同業者との意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前からケアマネージャーや職員が関わりを持ち、できるだけ本人や家族の声を聞く様に努めている。出来る限り、本人や家族との面接・聞き取りを実施し、ご要望に近づけるよう体制を整い、安心して支援を受けてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族にお話を聞き、御家族の思いを受け止め信頼を得られる様な支援を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からの相談、家族の訴え等から、本人と家族にとって、一番必要な支援を決めて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来る事はしてもらい、一緒にゆっくりと楽しくという理念の下で共に楽しみ助け合う雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、本人・家族の思いに寄り添いながら支援しており、必要であれば頻回の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があれば共に喜び、再度の来所をお願いしている。	家族の協力があれば、馴染みのあった美容院等に出向き、関係が途切れないようにされている。今後、コロナ禍で途絶えていた知人の来訪を期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心理行動障害により、利用者同士、良好な関係を築くことが難しい場合があるが、職員が間に入り関係の悪化を防ぎ、なるべく孤立させないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了決定時の引継ぎと御家族や関係者から連絡があれば適宜相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回職員会議で、利用者様一人ひとりについて話し合い、その人の希望や思いについて検討し、出来る限り実現出来る様になっている。	意思表示が難しい方には、意向の把握に努めている。食事に関しても嚥下がスムーズにできるような形態等に工夫し、口から摂取できるように行っており、利用者の自立を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく入居前から聞き取りを行い、又面会の度に御家族と雑談をしながら馴染みの暮らし方に近い環境を提供出来るように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力、わかる力を正しく評価し、職員で総合的に見つめる目を養う努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所の度に状態の説明を行い、介護計画書を見てもらいながら話を聞き、職員には月一回のミーティング時に職員の意見を聞いている。	本人や家族から聞いた話を基に作成している。ケアの中で細かな内容は、職員から聞き取り、話し合って計画に反映している。退院後等状態が変化したときは、看護師からも意見を聞き、計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に対する気づきやそれに基づくケアへの実践・情報共有を常に行うように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個々のニーズに応えられるよう、本人・家族の意向や状態を考えながら、柔軟な支援やサービス提供となるよう職員全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前はボランティアの訪問等も行っていたが現在は行っていない。海や山が近いためドライブや散歩を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるように助言・支援している。	かかりつけ医は可能であれば、在宅で対応していただいていた先生に継続してお願いすることもある。訪問看護の対応が迅速で、何かあれば訪問看護師から主治医に連携し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内に訪問看護部門があり、素早く対応している。一日に数回は見回りに来てくれ適切な助言がある。又必要時はこちらから依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院との連携は密に行い、ケアワーカーとの連携も取れている。入院時には度々御見舞いに行き、情報を貰い。かかりつけ医にも相談を行い早期の退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の事も話し合っている。又、状態が変化した時は、その都度話し合い、家族が納得出来る対応をしている。	入所時に、終末期のあり方について説明し方針を伝えている。その中で延命治療、積極的な治療をどうするか、ご家族の意向を伺い、実現できるように家族と対話し、理解を深め対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の動きは常にミーティング等で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導のもと、防火・消防・避難訓練を行なっている。災害に対する訓練は十分ではない。地域との連携も少なくともっと協力して頂ける関係を作りたい。	防火設備点検業者が年二回設備の点検に来られる際に、避難誘導、避難場所の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で介護理念を頭に入れて就業を開始する。プライバシーには配慮をし、人格を尊重するように心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応や高圧的でない対応を心がけている。呼び方は、家族に確認し本人が心地よいと感じる呼び方をしている。同性介助は希望があれば対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞きながらできるだけご本人の希望に沿う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、機嫌等を見ながらその日の対応を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めを希望される利用者に対しては、定期的に職員が対応し、衣服については基本ご本人に決めて頂いているが、自身で意思表示できない方については、御家族様に尋ねて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、ごく一部の利用者しか行えていない。、食べたい物を尋ね献立や行事・食事会などに取り入れ、食事が楽しみになるように配慮している。又嗜好を考慮し、個々に変更するように心掛けている。	現在は外出対応できないので、月1回のお寿司バイキングや希望に答えてラーメンを提供したり、ファーストフードを購入するなどの対応を行っている。ホーム喫茶も実施するなど、一人ひとりの好みに配慮しながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、少ない時は別の方法を考え、それでも駄目な時は医師や看護師に指導を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や本人の能力に応じ、声掛け・見守り・介助を行ない、義歯・歯ブラシ・コップの洗浄、消毒も毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子観察や排泄表等で排泄パターンを掴み、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表を基本的に活用し、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導することで、日中は布パンツやパットでの対応となり、自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や食物繊維など取り入れ、水分の摂取にも気を配っている。又排泄表を作り、適切な排便があるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、基本午前中に実施しているが、個々の体調・希望を考慮し、適宜変更している。	入浴は週2回～3回の間隔で行っている。声掛けを工夫しながら、入浴に抵抗のある利用者にも清潔が保持できるよう、きめ細かな対応を行っている。入浴剤を入れるなどして楽しんで入っていただける工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息の時間を考え、良いリズムが作れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬に対する目的・知識を学習、共有し、経過の観察に努め、看護師等との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事、誕生日会や外食、お散歩等で気晴らしを行っている。又本人の意思により、家事などのお手伝いなどしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望通りの外出は難しい時もあるが、希望があれば御家族と相談しながら支援している。	以前は花見等外出する機会が多かったが、コロナ禍で大人数での外出は難しく、個別対応での外出を家族様と相談しながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の理由もあり、居室内に金銭を置くことはお断りしているが、買い物などの際は、立て替えてお金をお渡しするとともに、支払いの支援を行う様にしている。本人の希望により置く場合は、個々に管理いただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話をかけたり又相手方にかけていただく支援を行なっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいうらみで自分の座る場所があり、温度や光に気をつけ、居心地の良い様に工夫している。又、季節の花や飾りつけを行い、落ち着ける雰囲気作りをしている。	季節感のある飾りつけに囲まれてリビングで過ごされる方が多い。個々の相性もある為、座る場所は配慮している。動画配信サイトで音楽をかけたり、時にはソファで座ってくつろげるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる居室もあり、皆と過ごせるリビングもある。無理な声掛けはせず、本人が落ち着いて過ごせるように支援してる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や誕生日の写真を飾ったり、季節を感じられるレイアウトを行ったりして、落ち着けるように工夫している。希望があれば馴染みの物や自分の物を持ってきてもらっている。	長く使われてきた馴染みのあるタンスを置いている方や、仏壇を置いている方もいる。転倒の危険性のある方の部屋には、ジョイントマットを引き詰め、安全に配慮した工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、お風呂などには手摺をつけ、歩きやすい様に工夫をしている。又動線は常にきれいにするように心掛けている。			